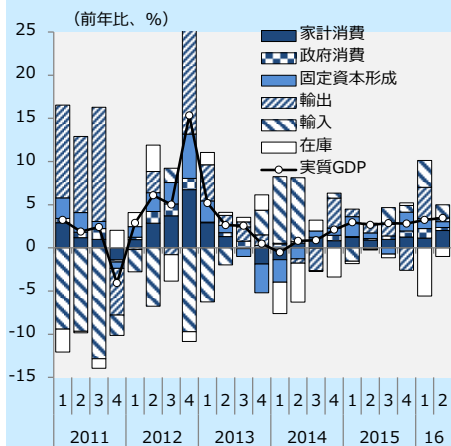


タイ：GDP（2016年4-6月期） —干ばつの影響が落ち着き、消費が回復—

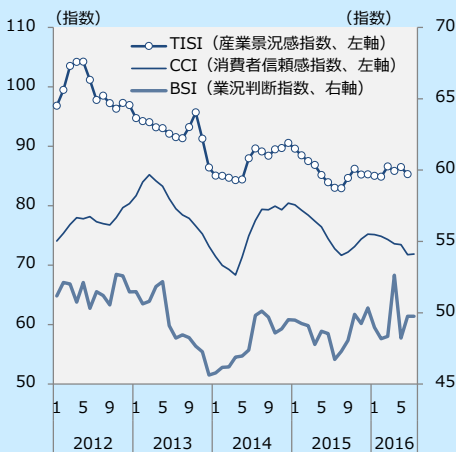
MRI Daily Economic Points August 15, 2016

実質GDP

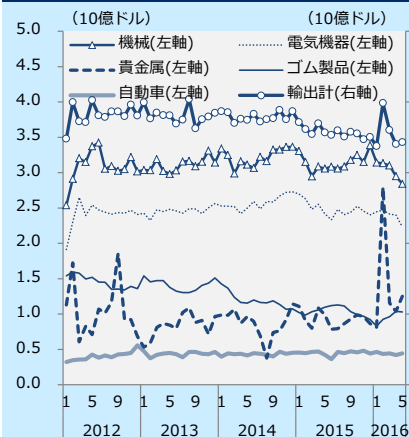


注：右図は、三菱総合研究所による季節調整値。
資料：Bloomberg、CEICより三菱総合研究所作成

マインド

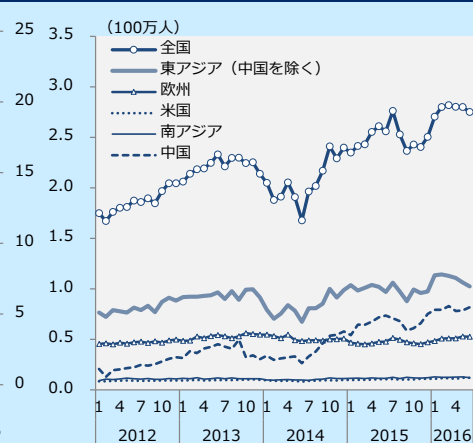


名目輸出入



注：三菱総合研究所による季節調整値。
資料：CEICより三菱総合研究所作成

旅行者数



評価ポイント

今回の結果

- 16年4-6月期のタイの実質GDPは、前年比+3.5%と前期(16年1-3月期：同+3.2%)から伸びが上昇した。季調済前期比でも+0.8%と前期(同+1.0%)に続けて高い伸びとなった。
- 実質家計消費は前年比+3.8%と、伸びが加速した。タイでは、14年以降干ばつが繰り返し発生し、農産物価格上昇や農業従事者の所得減少を通じて、実質消費を下押ししてきた。しかしながら、16年春以降、干ばつによる被害が収束に向かいつつあることで、消費者や企業のマインドは下げ止まりつつあり、消費にも回復の動きがみられている。
- 政府の景気刺激策により、政府消費も増加傾向となっている。タイ政府は、農家や低所得者に対する支援などを実施、予算の執行も目標を上回るペースで進んでいる。
- 一方、輸出は、16年初に一時増加したものの、4月以降は低調に推移している。商品価格の上昇などから貴金属製品やゴム製品が増加しているが、機械類の輸出は減少が続くなど、輸出の本格的な回復には至っていない。
- 15年末以降増加を続けていた外国人旅行者数も、中国経済の減速や人民元安の影響で中国人観光客の伸びが鈍化しているほか、タイ国内の政情不安もあり、16年3月頃を境に伸び悩んでいる。
- 金融市場は、米国利上げ観測の後退などを背景に通貨安が一服しているほか、株価も1月中旬をボトムに上昇している。

基調判断と今後の流れ

- タイ経済は、干ばつ被害の収束やマインドの下げ止まりによる消費の回復などから、緩やかな回復を続けている。
- 先行きは、消費の緩やかな回復が続くと予想するが、①高い家計債務比率が消費の重石となることや、②中国経済の減速による輸出の下押しが続くことなどから、16年は3%台前半の緩やかな成長を見込む。
- 今後のリスクには、政治的不安定化があげられる。新憲法草案は8月の国民投票で承認されたものの、プーケットで爆発事件が起こるなど、治安は不安定な状況が続いており、軍政に対する反発を背景とした政情不安の再燃が懸念される。